

## 地 域 社 会

### 社会貢献活動

カシオ独自のノウハウや経営資源などを活かし、良き企業市民として、広く社会に対する責任を果たしていきます。

#### 社会貢献活動の考え方

カシオは、健全で心豊かな社会づくりを目指し、社会とのコミュニケーションを通じて、また、良き企業市民としてカシオに何ができるかを見極めながら、積極的に社会貢献活動を行っています。重点分野としては、右図の5分野を設定し、カシオ独自のノウハウや経営資源、並びに従業員個人が保有するさまざまな知識や経験を有効に活かして、カシオらしい活動を展開していきます。

今後は、東日本大震災被災者への支援を継続して行っていくとともに、国際的課題の解決に向けた取り組みについても計画・推進していきます。

社会貢献活動重点5分野



#### 次世代教育

##### 工場見学、受け入れ授業、出前授業の実施

カシオでは、2004年に、甲府カシオの工場見学を通じて、子供たちに『家族の絆』『科学の力』『夢の実現』の3つを【生きる力】に結びつけるための気づきをもっていただくことを目的とした教育プログラム「1万人の工場見学」を開始し、2007年からは、小学生を対象としたオリジナルの教育プログラムを開発し、出前授業および八王子技術センターでの受け入れ授業を実施しています。

出前授業のプログラムは大きく分けて3部構成です。最初に「絆・創造・心の成長」を通して命の大切さを語ります。次に環境に配慮した商品技術として電卓の分解、組み立てを体験し、最後に地球環境保護の大切さなど具体例を通して説明する授業です。子供たちが自ら考え、思いやり、やさしさ、親切、笑顔が大事であることに気づき、豊かな心を育んでもらうことを意図しています。

また、八王子技術センターでの受け入れ授業は、より環境面に配慮した形で展開しています。カシオグループの中でも最先端の環境配慮型事業所である八王子技術センターの施設見学を通じて、地球環境保護への意識と気づきをもっていただくことを目的としています。



1万人の工場見学は、主体的に見学し体験する場面が多いので、大変興味をもって参加していただいています。



八王子技術センターでは、従業員親子を対象とした授業も定期的に行っています。



幼稚園児から大学生まで幅広い層を対象に出前授業を行いました。

出前授業は、幼稚園児から大学生まで、そして全国へと広がりを見せ、2010年度は、延べ45校、1,932名の生徒さんたちにこれら学習の機会を提供しました。

2010年度から、この活動には、NGO/NPOにも在籍する複数の大学とのコラボレーションをもち、協働授業を行う場面も設定し、学生が社会と直接触れ合う場とするとともに、将来教育者を目指す学生の教育体験の場としても活用いただいています。

また、この活動の後、子供たちが自ら、命、平和、人権、貧困、環境等について、議論を行うサミットを開き、社会に目を向けた活動を展開する小学校も複数出てきました。

その結果、2009年度、小学校として国内で初めて「エコプロダクツ」展への出展を実現し、2010年度は2つの小学校が出展を行っています。

さらに、この出前授業を通じてかかわった、神奈川県横浜市の永田台小学校では、ESD (Education for Sustainable Development) 活動を積極的に進めるため、ユネスコ・スクールへの参画を表明し、2010年度に、ユネスコから、神奈川県の小学校として、初めて認証を取得しています。

今後とも、カシオは、文部科学省が推奨するESD活動を真摯に受け止め、教育現場とのコラボレーションで、拡大展開をしていきます。

## 学校の声

今般、永田台小学校に異動し、こちらでもぜひ子供たちにカシオ計算機の若尾さんの授業を受けてほしいと考え、出前授業をお願いしています。

以前から永田台小学校では、個別支援学級の子供たちが、建物の外側に植物を植えて涼しくするグリーンカーテンや、野菜の皮や雨水のリサイクルなどの継続的な活動を行っており、この取り組みをぜひエコプロダクツ展に出展したいと考えました。

これらの活動を知ってもらい、子供たちの自信につながるステップアップの場として活かせたらと思う

たのです。学校の中だけで考えていると取り組みが行き詰まりがちなので、若尾さんには全体にわたってアドバイスをいただきました。

若尾さんとの継続的なかわりは、子供たちの学びを広げ、深めていくことにつながっています。本気で子供たちに向かい、語りかける姿に、教職員も新たな気づきを得て教育に打ち込む意志を強くしています。ユネスコスクールへの加盟など神奈川県での先進的な取り組みのきっかけにもなり感謝しています。



永田台小学校 校長  
住田 昌治 先生

## NPOの声

「3.11」、この大災害は個人だけでなく、企業やNGO/NPOの支援というものに対する価値観や方向性を変える大きな転換期となっていると思います。

私たち「カンボジアの教育を支える会」は、カシオ計算機の若尾さんのご協力のもと、小学校およびJICAでの講演会の機会をいただきました。

「子供の力が大人の世界を変える。」若尾さんの言葉とともに、現地活動で得たことを、一人でも多くの日本の子供たちに伝えることができたことは、私たちにとって非常

に貴重な経験だったと思います。

企業とNPO。双方の立場は異なるものの、ともに社会へ普及啓発ができたことは私たちの活動をより広げるきっかけになったと思います。それはちょうど、ひとつの危機的状況に対し日本の国民が、NGO/NPOが、そして企業がそれぞれにできることを模索してともに行動した光景と重なるようにも思います。

これからも普及啓発のみならずすべての活動に励みたいと思います。



カンボジアの教育を支える会 高橋紀子様

## 担当者の声

子供たちは、無限の可能性と高い志をもっています。これらは、大人の世界をも変える大きな力となっています。やがて、社会のリーダーとなる子供たちに、生きる原点である、「命」への思いをもっていただくことで、社会を持続可能な姿に変革していただろう。ここに「命の授業」の価値を置いています。

「命」への思いに触れ、気づきと志を醸成した子供た

ちは、自ら、平和、人権、貧困、あるいは環境活動に取り組んでいきます。自ら考え、行動し、社会をより良いものに変えていく子供たちを育んでいく活動は、企業の社会的責任として、重要なものと受け止め、今後もより積極的にCSR活動の柱として取り組んでいきます。



CSR推進室  
若尾 久

## 学研究

### 「カシオ科学振興財団」への支援

カシオは「カシオ科学振興財団」への支援活動を通じて、科学技術の発展に貢献しています。

### 財団について

カシオ科学振興財団は1982年に、故・榎尾茂前会長と榎尾4兄弟によって設立されました。

我が国が技術先進国として世界に貢献するという使命を果たすには、高度な研究開発がさまざまな分野で進められるべきであるとの理念のもと、研究助成活動を展開しています。中でも、限られた研究費で困難な研究を続けている若手研究者による萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究の助成を主眼としています。

### 2010年度の助成内容

2010年度は、5分野21分類の基本テーマに加え、近年の

#### 東日本大震災への対応

カシオ科学振興財団は大学における研究活動の一刻も早い回復を支援するため、今回の震災で大きな被害を受けた東北地方の三大学に対し、1,000万円を寄付しました。

|          |       |
|----------|-------|
| 寄付先：東北大学 | 500万円 |
| 東北学院大学   | 200万円 |
| 福島大学     | 300万円 |

社会情勢から見て重要と思われる3つの特別テーマ（「小型化・低消費電力化」「健康維持・増進のための電子装置」「IT社会における人間の知的進歩」）を設定しました。

過去最多の応募が寄せられましたが、厳正な選考審査の結果、自然科学部門4,400万円(34件)・人文科学部門675万円(5件)の助成を実施しました。

なお、28年間の研究助成の累計は13億3,200万円(1,053件)に達しています。

### 助成研究者の声

この度はカシオ科学振興財団研究助成をいただき誠にありがとうございます。選考委員並びに関係者各位に感謝します。私の研究内容はエネルギー関連材料に関するものです。エネルギー分野は緊急課題であるため、既存研究の改良や基礎軽視になりがちです。このような中、アカデミックの特権とも言える、非常にチャレンジングな提案をご理解いただきました。日本の復興の一助となれるよう、革新的エネルギーデバイスの開発に取り組みます。今後も皆様のご指導ご鞭撻のほどお願いします。



東北大学 多元物質科学研究所  
松井 淳 助教

## 環境保全

### 植樹活動の実施

カシオ電子シンセンでは、地球環境や地域社会との共存共栄を目指し、6年前から植樹活動に参加しています。

2011年4月には、従業員32名が「2011緑色大運※記念林植樹活動」に参加し、シンセン市竜岡区竜城公園で紫薇樹25本の植樹を実施。地域の方々とさらに良い関係を築くとともに、従業員同士の団結力を高めることができました。

※2011年8月に中国シンセン市にて行われた環境に配慮したユニバーシアード大会



2011緑色大運記念林植樹活動

## 文化・芸術

カシオでは、交響楽団や文化施設への協賛等により、人々に喜びと感動を提供するとともに、文化・芸術の継承を図っています。

- NHK交響楽団への協賛
- 東京フィルハーモニー交響楽団への協賛
- パリ日本文化会館への協賛 など



## 地域社会活動

### 工業専門学校内にカシオ技術クラス設置と実習生の受け入れ

カシオ中山では、2009年より、中国内陸部の発展途上地域で技術・技能者を育成することで地域貢献しながら、さらに希望する人材には当社に入社して活躍してもらうことを目的として、2009年度に湖南省の工業系専門学校と提携合意し、学校内に「カシオ技術クラス」を設置しました。規模は6教室で合計309名の学生が入校し、工業専門教育の他に、組立実習用の機材を提供してカシオ製品を組み立てる技能教育や、当社の業務規程を活用した規範教育を行っています。

さらに、夏休みと冬休みを利用して定期的に当社で実習を行い、2011年3月までに延べ1,660名の学生が実習を終了しています。



カシオ技術クラスの開設祝賀会

2011年6月からは、カシオ技術クラスの第1期の卒業生が当社の社員として入社する予定であり、将来の生産ラインのリーダー候補として期待をしています。

### 果樹王国ひがしね さくらんぼマラソンに協賛

山形カシオは、「企業活動だけでなく、地元・東根市への地域貢献を通じて地域により愛される企業になろう!」と考え、「果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」に、2004年より協賛しています。

9回目となる2010年の大会では、協賛企業として賞品提供、販売ブースの出店を行い、また、従業員約60名が、ランナー、応援団、沿道整理ボランティアとして参加しました。



ブースの出展

## その他

### 福祉作業所への商品解体・分別業務委託

カシオビジネスサービスは、「人と環境にやさしい企業」を目指し、製品廃棄におけるリサイクル活動を推進していく中で、社会福祉法人が運営する福祉作業所にカシオ製品の解体や分別作業を委託しています。

多種多様な商品を扱う当社の委託業務は、作業者的の方々の充実感が高く、ここで得た集中力や自信は日常生活に波

及し、作業者の人間形成に役立っていると評価をいただいています。



解体作業

### Jewelers for Childrenへの支援

カシオアメリカでは2010年よりJewelers for Childrenの活動を支援しています。

Jewelers For Childrenはジュエリー業界によって1999年に設立されたNPOで、難病に立ち向かう子供や幼児虐待などに直面した子供たちを支援する基金を運営しています。設立以来3,500万ドルを超える金額を寄付し子供たちの健全な育成をサポートしています。



### 災害被災者への支援

カシオでは自然災害などにより甚大な被災が発生した場合、被災者の方々の救済と被災地の1日も早い復興に支援を行っています。

#### ●中国青海省地震被災者への支援

2010年4月に中国の青海省で発生した大地震による被災者のために下記のとおり寄付しました。

金 額:カシオ計算機より150万円、カシオ中国販売系現地法人より10万円

寄付先:日本赤十字社および現地赤十字社